

会報 平成おやじの会

No.163

忘年会

恒例の忘年会は12月8日（土）に山の手会館で開催、18人参加とやや少なめでしたが、大いに盛り上がり、深夜近くまで宴は続きました。「来年こそ良い年に」。



飲んで談笑

■参加者の感想

恒例の忘年会

前日、あの震災の余震による津波が押し寄せました。被災地の方々の精神的苦痛はいかほどかを思うと、心苦しいかぎりではありましたが、今年も12月8日（土）18:00から、おやじ忘年会が開催されました。

いつもより、こじんまりした集まりとなりました。今年は生まれ順に、個人発表が行われ、とても新鮮な趣向でした。奥井先生？（最初は誰でしたっけ？）に始まり、会長で終るといった感じです。

発表に先立って、校長から「一日講師のレベルが年々上がっている」とのお言葉を頂戴しました。お褒めの言葉であると同時に、プレッシャーでもあり、今後の参加をついはばかりたくなるような言葉もありました。また、個人発表の中で、「来年の一日講師では、もっと笑いをとれる授業をやりたい」との前向きな言葉もありました。おやじの授業で一番大切なことは何でしょう。それはやはり熱意であり、酸いも甘いも苦いも含んだ、自らのやりがい・生きがいを語ることでないでしょうか。仕事の話でも、趣味の話でも、赤裸々な思いを語るこそ、生徒たちの興味を自然と惹き、心を惹くのだと思います。校長がおっしゃったレベルというのは、熱意の強さということだと思っています。

今年の忘年会は終始、まじめな話ばかりで酔っ払うのを忘れてしまうくらいでした（笑）。来年は個人的に、おやじの会10周年となります。いつも親切で温かい、楽しくて嬉しい皆様と、一緒に活動できることが何と幸せなことだろうと、今までを振り返り、今に感謝し、今後のお付き合いをお願いするしだいでございます。いつも有難うございます。

おやじOB 高木 善人

